

授業概要

これまでの各レポートとは異なり、4年間で最も関心を持つことが出来たテーマを選定し、1つのテーマについて真剣に考え、テーマに関する文献収集を行い、論理的な思考の訓練を行い、疑問に思うことを徹底的に調べ、掘り下げる必要がある内容を発見し、仮説を立て、研究目的にそって、論旨を組み立て、論文を書き上げるまでの指導を行う。

授業計画

第1回	卒論とレポートの違い	第16回	序論完成
第2回	論文完成までの計画の立て方	第17回	論旨の展開確認
第3回	文献購読の仕方	第18回	本論完成
第4回	批判的に文献を読む	第19回	図表完成
第5回	文献収集	第20回	引用文献リスト完成
第6回	英語文献に挑戦	第21回	結論完成
第7回	先行研究	第22回	論文全体の吟味
第8回	研究目的の設定	第23回	本文完成
第9回	仮説の設定と検証方法検討	第24回	論文点検
第10回	卒論テーマの選定	第25回	最終誤字脱字チェック
第11回	卒論テーマの絞り込み&決定	第26回	論文完成確認
第12回	卒論目次作成	第27回	論文要旨作成
第13回	卒論構成完成	第28回	論文発表資料作成
第14回	研究計画書作成	第29回	発表会プレゼンテーション練習
第15回	中間発表	第30回	まとめ
		第31回	試験

到達目標

- 1つのテーマについて調べ、まとめることができる。
- 文献を読み、批判的に検討することができる。
- 論理的思考が修得できる。
- 論文を書き上げることができる。

履修上の注意

4年間の集大成としての卒業論文ですので、真摯に取り組んでください。

予習復習

毎回の進捗に応じて、予習・復習を各90分程度しっかり行ってください。

評価方法

卒業論文（要旨を含む）完成 100%

テキスト

教科書や参考書は特に指定しない。必要に応じて授業中に紹介する。

授業概要

入学以来学んできたことをベースとして、各自が適切な研究テーマを決めて、研究を着実に進めて最終的に卒業論文を完成させるための指導をします。その過程でとりわけ重要な点は、第 1 に論文の着眼点や目的をはっきりさせ自分の論文のオリジナルな貢献を明確化すること、第 2 に先行研究のサーベイを実施すること、第 3 に研究テーマに沿って必要な情報なデータを収集し、それらを分析、考察していくこと、そして最後に得られた結論を適切にまとめることです。

授業計画

第 1 回	卒業論文完成までのプロセス確認	第 16 回	中間報告 1
第 2 回	卒業論文計画書の検討	第 17 回	中間報告 2
第 3 回	卒業論文計画書の再検討	第 18 回	追加情報とデータ収集に関する報告 1
第 4 回	先行研究サーベイの報告 1	第 19 回	追加情報とデータ収集に関する報告 2
第 5 回	先行研究サーベイの報告 2	第 20 回	追加情報とデータ収集に関する報告 3
第 6 回	先行研究サーベイの報告 3	第 21 回	追加情報とデータ収集に関する報告 4
第 7 回	先行研究サーベイの報告 4	第 22 回	追加情報とデータ収集に関する報告 5
第 8 回	先行研究サーベイの報告 5	第 23 回	問題点の再整理 1
第 9 回	情報とデータ収集に関する報告 1	第 24 回	問題点の再整理 2
第 10 回	情報とデータ収集に関する報告 2	第 25 回	主要な結果の報告 1
第 11 回	情報とデータ収集に関する報告 3	第 26 回	主要な結果の報告 2
第 12 回	情報とデータ収集に関する報告 4	第 27 回	主要な結果の報告 3
第 13 回	情報とデータ収集に関する報告 5	第 28 回	卒業論文執筆の経過報告 1
第 14 回	問題点の整理 1	第 29 回	卒業論文執筆の経過報告 2
第 15 回	問題点の整理 2	第 30 回	卒業論文の完成
		第 31 回	要旨の作成

到達目標

- 独自性と意義のあるテーマを設定することができる。
- テーマに関連した各種の情報やデータを収集、加工するとともに、得られた結果を適切に解釈することができる。
- 各回のゼミにおいて、進捗状況を適切に報告することができる。
- スケジュールを適切に管理して、着実に論文を執筆することができる。
- 完成した論文の内容や意義を、わかりやすく発表することができる。

履修上の注意

論文を執筆するというのは、大変な労力を要しますので、十分な覚悟を持って取り組んでください。

予習・復習

卒業論文の執筆というものは、それぞれの学生がテーマ選択から完成まで主体的に取り組む課題ですので、各自が授業での指摘や議論を踏まえて、前向きに作業を進めていくことが重要です。

評価方法

各回の報告 40%、論文の意義や独自性 30%、最終的な完成度 30%。

テキスト

参考文献等は、適宜指示します。

授業概要

卒業論文の完成が目的であるが、そのために行わなければならないことがある。それが授業計画に示されていることである。相当な数であることに驚くかもしれないが、ひとつひとつをこなしていけば、たいしたことではない。しっかりと進めていこう。先行研究について確認をした上で何が問題点であるのかを検討します。問題点を考えて卒論の調査研究に進んでみましょう。調査目的を自身で設定し、仮設の設定を行います。ここから実際に調査を実施することになります。調査により、データを取るようになるが、ここからコンピュータにデータを打ち込み、解析をするということになります。この後のことはゼミでお話します。しっかりやっていきましょう。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	教員による研究論文の発表	第 17 回	調査方法、解析の検討 1
第 3 回	テーマの設定	第 18 回	調査方法、解析の検討 2
第 4 回	先行研究の発表 1	第 19 回	調査の実施 1
第 5 回	先行研究の発表 2	第 20 回	調査の実施 2
第 6 回	先行研究の発表 3	第 21 回	データ入力
第 7 回	先行研究の解釈	第 22 回	SPSS の復習 (操作方法) と解析 1 (記述統計)
第 8 回	問題点の議論 1	第 23 回	SPSS による解析 2 (相関分析)
第 9 回	問題点の議論 2	第 24 回	SPSS による解析 3 (多変量解析)
第 10 回	目的の作成 1	第 25 回	卒業論文の執筆 1
第 11 回	目的の作成 2	第 26 回	卒業論文の執筆 2
第 12 回	論文の収集 1	第 27 回	卒業論文の執筆 3
第 13 回	論文の収集 2	第 28 回	卒論発表演習 1
第 14 回	問題と目的の議論	第 29 回	卒論発表演習 2
第 15 回	第 14 回までのまとめ	第 30 回	全体的なまとめ

到達目標

- 研究テーマを設定し、テーマに関わる文献の収集でき、それらを理解できる。
- 質問紙を科学的な方法で作成できる。
- 課題に合った統計解析を実行できる。
- 結果を論理的、客観的に利用できる。

履修上の注意

- 無断欠席はしないこと。
- 重要な点は「ノート」に記述すること。
- 3年生までに受けた調査はどのようなものであったか、思い出してみよう。

予習・復習

毎回のレジュメは自宅等で必ず確認をしておくこと。つまり、「復習」がよい効果をもちます。

評価方法

卒業論文および卒論ゼミにおける発表を含めた普段の様子（意見を述べることなど）を評価対象とします。

テキスト

こちらでテキストを用意します。

授業概要

卒業論文を作成するための方法を指導する。

すでに、専門演習でデータを分析する方法を習得しているため、ここでは、必要なデータがどこにあるか、収集したデータをどのように分析し、どのように解釈するべきか、について討論したい。必要とあらば、専門演習で習得できなかった分析方法に取り組むこともある。

授業計画

第 1 回	はじめに	第 16 回	収集したデータの構造の検討 1
第 2 回	論文のテーマの設定 1	第 17 回	収集したデータの構造の検討 2
第 3 回	論文のテーマの設定 2	第 18 回	収集したデータの構造の検討 3
第 4 回	論文のテーマの設定 3	第 19 回	収集したデータの構造の検討 4
第 5 回	先行研究の検討 1	第 20 回	収集したデータの構造の検討 5
第 6 回	先行研究の検討 2	第 21 回	統計モデルの作成 1
第 7 回	先行研究の検討 3	第 22 回	統計モデルの作成 2
第 8 回	先行研究の検討 4	第 23 回	統計モデルの作成 3
第 9 回	先行研究の検討 5	第 24 回	統計モデルの作成 4
第 10 回	必要なデータの収集 1	第 25 回	統計モデルの作成 5
第 11 回	必要なデータの収集 2	第 26 回	論旨の構成 1
第 12 回	必要なデータの収集 3	第 27 回	論旨の構成 2
第 13 回	必要なデータの収集 4	第 28 回	論旨の構成 3
第 14 回	必要なデータの収集 5	第 29 回	論旨の構成 4
第 15 回	収集したデータの検討	第 30 回	論文の表現方法の検討
		第 31 回	定期試験

到達目標

- 卒業論文を作成することができる
- 論旨を展開できるようなデータを収集することができる
- 論旨を理解できるような統計モデルを構築することができる
- 論旨を理解できるような表現方法を検討することができる

履修上の注意

- 専門演習で学んだ統計処理の方法を忘れないこと
- ネットで収集できないデータは、それが存在する機関へ取りに行くこと
- 必要な統計処理が必要な場合、改めて習得する必要があること

予習・復習

毎回の講義に出席をする必要がある。その場合、必ず何らかの進展があるように予習と復習を欠かさないようにする。また、論文の内容によっては、専門演習で習得できなかった統計的方法を理解する必要があるため、そのための予習と復習は欠かせない。

評価方法

卒業論文の内容によって、評価する。また、論文作成を指導する過程で、学習意欲のないものは、評価を下げることになる。

テキスト

特になし。その時々に必要なものを指摘する。

授業概要

最初に論文の書き方を講義します。4月中に各自が卒業論文のテーマを決めた後は、各自、論文の書き方のルールに従って、論文作成を進めます。定期的に、ゼミで、皆の前で発表し、他のゼミ生からの意見や先生からのコメントを受けて、論文を修正する形で、進めます。論文のテーマは、どのような分野から選んでも、どのようなテーマでもよいです。すなわち、租税法の論文である必要はありません。これまでに学んだ科目のうち、「これは問題じゃないか?」、「この点が解決できたらいいのに!」、と思うものをテーマにして下さい。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：論文テーマ	第 16 回	第 3 章（裁判例認定事実検討）報告・指導
第 2 回	論文テーマ：報告・指導	第 17 回	第 4 章（当てはめ検討）報告・指導
第 3 回	論文テーマ：報告・指導	第 18 回	終章（まとめ）：報告・指導
第 4 回	論文テーマ：報告・指導	第 19 回	終章（課題・弱点補強）：報告・指導
第 5 回	文献収集：報告・指導	第 20 回	論理展開の再検討：報告・指導
第 6 回	序章：報告・指導	第 21 回	論理展開の再検討：報告・指導
第 7 回	第 1 章（事案概要・問題所在）	第 22 回	質・内容の向上（第 1 章）報告・指導
第 8 回	第 2 章（学説等検討）報告・指導	第 23 回	質・内容の向上（第 2 章）報告・指導
第 9 回	第 2 章（学説等検討）報告・指導	第 24 回	質・内容の向上（第 2 章）報告・指導
第 10 回	第 2 章（学説等検討）報告・指導	第 25 回	質・内容の向上（第 3 章）報告・指導
第 11 回	第 2 章（学説等検討）報告・指導	第 26 回	質・内容の向上（第 3 章）報告・指導
第 12 回	第 3 章（裁判例・解釈検討）報告・指導	第 27 回	質・内容の向上（第 3 章）報告・指導
第 13 回	第 3 章（裁判例解釈検討）報告・指導	第 28 回	質・内容の向上（第 4 章）報告・指導
第 14 回	第 3 章（裁判例認定事実検討）報告・指導	第 29 回	質・内容の向上（終章）報告・指導
第 15 回	第 3 章（裁判例認定事実検討）報告・指導	第 30 回	まとめ（最終試験準備）
		第 31 回	最終試験

到達目標

- 内容についての到達目標
法的三段論法の知識を身に付け、それに基づいた論理的文章を論文において記述することができる。
- 作成期日についての到達目標
9月頃までに、粗々の論文の書き上げ、12月までに、本文の完成と要旨を作成をすることができる。

履修上の注意

論文作成は、全員、初めての経験です。論文作成にはルールがあります。そのルールの意味するところは、自分の論文でいうと、どのようなことを具体的にはいうのか、を考えることができると、論文が進みます。どのようなことを書けばいいのかについて気が付くには、他のゼミ生の論文について先生がどのようなコメントをしているのかを聞き取ることが、とても役に立ちます。自分の論文につき、次に、やることは何かが、常に、頭の中で明確になっていることが必要です。もし、明確になっていないときは、先生に聞いて、次にすべき作業を、常に、いつも、必ず、頭の中に入れておいて下さい。各自、学習時間表を記録し、定期的に先生に提出していただきます。論文作成上の作業書類の例は、次のとおりです(次の例は租税法論文の場合)。

- 〔(1)〕 当初3か月程度で三点セット（事案概要・三者比較表・論者比較表）を作成し報告する。
〔(2)〕 その後、常に四点セット（説明・質問等メモ、要旨、本文、論理展開図）を作成のうえ、報告し、指導を受ける。

予習・復習

予習は、配付資料についてその内容を理解すること、復習は、指導内容のポイントを理解して訓練して実行する（論文の執筆を行う）ことです。通常の科目は、授業1回（90分）につき、自宅学修は最低4時間が必要です。卒業論文の場合は、調査や論理構成が難しいため、もっと、時間を投入する必要があります。

評価方法

論文の内容（論理的展開の有無、文章の完成度、調査内容の充分さ等）への配点が80%。その他（課題の提出状況、内容、発言、ゼミでの貢献等）に20%配点する。

テキスト

- 教科書名：なし。すべて、教員作成の独自テキストを配付します。

授業概要

これまで大学で学んできたことをベースにして、観光ビジネスや観光関連の事業・活動について現状を踏まえ、自身の問題意識に沿った卒業論文のテーマを設定する必要がある。授業通じて個人個人に合わせた指導を行う。

卒業論文作成の趣旨は、自らテーマを決めて、それに関わる資料やデータを集め、自分なりに考えて、問題解決の方向性を導き出すこと。さらにそのことを論理的に分かりやすく表現する必要があります。

学生時代の貴重な経験として残すべく、真剣に取り組んでほしいと考えます。

授業計画

第 1 回	卒業論文作成について	第 16 回	夏季休暇中の進捗報告
第 2 回	卒論のテーマ設定 (1)	第 17 回	事例分析・検証 (1)
第 3 回	卒論のテーマ設定 (2)	第 18 回	事例分析・検証 (2)
第 4 回	卒論のテーマ設定 (3)	第 19 回	事例分析・検証 (3)
第 5 回	テーマを決めて構想を練る	第 20 回	更なる補強資料収集と追加
第 6 回	テーマ発表	第 21 回	卒論中間報告 2 (1)
第 7 回	テーマに沿った資料の検討 (1)	第 22 回	卒論中間報告 2 (2)
第 8 回	テーマに沿った資料の検討 (2)	第 23 回	卒論中間報告 2 (3)
第 9 回	テーマに沿った資料の検討 (3)	第 24 回	引用と参考文献、誤字脱字、チェック
第 10 回	卒論構成の検討	第 25 回	結論の確認 (1)
第 11 回	卒論構成の設定	第 26 回	結論の確認 (2)
第 12 回	卒論中間報告 (1)	第 27 回	卒論要旨発表 (1)
第 13 回	卒論中間報告 (2)	第 28 回	卒論要旨発表 (2)
第 14 回	卒論中間報告 (3)	第 29 回	卒論要旨発表 (3)
第 15 回	夏季休暇及び秋期の作成計画	第 30 回	発表準備
		第 31 回	卒論のまとめ

到達目標

- 卒業論文を作成して完成させる。
- テーマにあった資料や文献を探し読み、論理的思考に基づく文章の展開を行い、自らの考えをきちんと反映したものを作り上げる。
- 他のメンバーや教員、関係者の意見をよく聞いて、卒論を執筆する。

履修上の注意

ゼミ活動は、卒業論文を執筆するうえで仲間と協業をする（メンバーの論文について聞くこと、指摘すること）など、様々な壁を乗り越えていく効果が期待できる。できる限り出席率を高める。

予習・復習

卒業論文の作成には、これまでの学習以上に多くの自分の時間をあてる必要がある。その時間に多くの時間をあてることで予習、復習と同様の効果がある。

評価方法

卒業論文と卒論発表（80%）、課題提出や授業での発言、姿勢（20%）等にて評価する。

テキスト

使用しませんが、必要に応じて授業で案内します。

授業概要

経済・経営分野と情報科学の領域を中心に、専門演習などの授業の蓄積した知識を踏まえて、実証研究を実施する。具体的には、

- ①AI（人工知能）に関する研究及び実証研究
- ②フィンテックに関する研究
- ③暗号通貨やブロックチェーンに関する研究 などを研究範囲と考えている。

授業計画

第1回	オリエンテーション（研究範囲の説明）	第16回	オリエンテーション
第2回	研究論文の体裁1（問題と目的）	第17回	データ収集方法の検討1
第3回	研究論文の体裁2（方法部分の記載）	第18回	データ収集方法の検討2
第4回	研究テーマの提案（図表の書き方）	第19回	中間構想発表会1
第5回	研究論文の結果の書き方	第20回	中間構想発表会2
第6回	考察部分の記載内容について学ぶ	第21回	データ分析結果報告1
第7回	引用文献の記載方法について学ぶ	第22回	データ分析結果報告2
第8回	テーマの発表1と質疑応答	第23回	分析結果を図表にまとめる
第9回	テーマの発表2と質疑応答	第24回	考察の執筆について
第10回	各ゼミ生の問題点の討論1	第25回	論文の発表1
第11回	各ゼミ生の問題点の討論2	第26回	論文の発表2
第12回	テーマに関する社会への応用について	第27回	論文要旨の作成（要旨提出）
第13回	秋期の研究スケジュールについて	第28回	論文の最終報告（論文提出）
第14回	個別相談	第29回	発表準備
第15回	夏休み中の研究内容の計画提出	第30回	まとめ

到達目標

- ・興味・関心のあるテーマの文献、資料を集めることができる。
- ・興味・関心のあるテーマの文献、資料を読み、内容を理解でき、論文にまとめられることができる。
- ・研究テーマの実証実験を中心に、研究内容を論文として適切にまとめることができる。

履修上の注意

- ・学科の専門必修科目の他、経済・経営、データサイエンス科目群の学習を事前に行う。

予習・復習

- ・発表準備のための予習・発表後の振り返りは必ず行う。
- ・仲間の発表に対しても積極的な質問や意見を発表する。

評価方法

卒業論文又は卒業研究の評価(60%)、発表・ディスカッションへの参加度(20%)、提出するレポート(20%)などにより、総合的に評価します。

テキスト

- ・参考書など必要なものは、講義の中で適宜指示します。
- ・必要に応じて資料は配布します。

授業概要

データサイエンスに関して3年次に学んだことを元に、4年次の春期はより進んだデータサイエンス手法について学びます。また、卒論テーマを決め、研究のための基礎的学習を進めます。

秋期は論文執筆のための基本事項を学びながら、各自のテーマに沿って分析と執筆作業を進めます。中間発表2回目・3回目を経て、完成した卒論の発表会をゼミの最終回に行います。

これらの一連の作業を通じて、「プロセスとしてのデータサイエンス」の一連の流れである「課題設定・データ収集分析のデザイン・データ収集とデータ管理・分析・分析結果からの価値創造」の一連の過程を体得してもらうことになります。

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	卒論テーマの発表と検討	第17回	論文の構成と文章表現
第3回	決定木分析①(理論)	第18回	図表の扱い・ページレイアウト
第4回	決定木分析②(最適木1)	第19回	分析作業1
第5回	決定木分析③(最適木2)	第20回	分析作業2
第6回	クラスター分析①(階層型1)	第21回	卒論の中間報告2回目(グループA)
第7回	クラスター分析②(階層型2)	第22回	卒論の中間報告2回目(グループB)
第8回	クラスター分析③(非階層型)	第23回	引用の仕方・参考文献表
第9回	卒論の中間報告1回目	第24回	分析作業3
第10回	ニューラルネットワーク①(構造1)	第25回	卒論の中間報告3回目(グループA)
第11回	ニューラルネットワーク②(構造2)	第26回	卒論の中間報告3回目(グループB)
第12回	ニューラルネットワーク③(単層NN)	第27回	構成点検
第13回	ニューラルネットワーク④(多層NN1)	第28回	卒論のまとめ
第14回	ニューラルネットワーク⑤(多層NN2)	第29回	卒論の最終報告(グループA)
第15回	ニューラルネットワーク⑥(検証)	第30回	卒論の最終報告(グループB)
		第31回	年間学習内容の確認

到達目標

- データサイエンスについての理解を深めることができる。
- 卒業研究を進め完成させることができる。

履修上の注意

1年間かけて研究を行い卒業論文を完成させます。テーマ選定・データ収集分析のデザイン・データ収集とデータ管理・データ加工・分析の実行・モデル発見・結果の検討・価値創造という一連の過程を卒業研究で行うことでようやくデータサイエンスを本当に理解できることになります。このことをしっかり意識して演習に参加してください。

予習・復習

予習：配布プリントの指定箇所を精読しておいてください。レポーターになった人は皆に説明できるように事前の学習を進めてください。

復習：学習内容をよく復習し、体系的理解ができるようにしてください。

評価方法

ゼミへの貢献(学習への積極的関与)40%、卒業論文60%で評価します。合計100点のうち51点以上を取れば合格となります。ただし、出席回数が10回に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

テキスト

教科書は使いません。

学習用の資料を配布します。

授業概要

3年時の専門演習で、考察対象の企業の「有価証券報告書（一部）」や「ホームページ」の情報を中心とした企業研究を基礎として、卒業論文に取り組む。

卒業論文の作成では、自身の問題意識に対して、どのように取り組んで課題解決するかが大切である。その検討の際には、多くの文献を参照することになるが、その参考文献の明示と、それに対する自身の主張を示すことに重点を置いて指導する。

授業計画

第1回	卒論作成についてのガイダンス	第16回	第2章の提出
第2回	テーマ決定のための資料プレゼン	第17回	第2章の報告（第1グループ）
第3回	テーマ選択理由のプレゼン	第18回	第2章の報告（第2グループ）
第4回	上記プレゼンで生じた課題の検討	第19回	第2章の修正版の報告と検討（第1グループ）
第5回	テーマ考察に必要な資料収集	第20回	第2章の修正版の報告と検討（第2グループ）
第6回	章立ての報告（第1回）	第21回	第3章以降の報告と検討（第1グループ）
第7回	前回の課題解決のための資料収集	第22回	第3章以降の報告と検討（第2グループ）
第8回	上記報告での課題の検討と報告	第23回	これまでの修正事項等の確認
第9回	章立ての報告（第2回）	第24回	結論の検討（第1グループ）
第10回	研究目的と方法の決定	第25回	結論の検討（第2グループ）
第11回	テーマ（仮）と章立ての決定	第26回	結論の報告と提出
第12回	引用・参考文献についての確認と指導	第27回	引用と参考文献の確認と整理
第13回	第1章の報告と討論（第1グループ）	第28回	卒業論文（要旨）の作成と提出
第14回	第1章の報告と討論（第2グループ）	第29回	卒論報告会用のレジюме作成
第15回	夏季休暇と秋期の計画の報告	第30回	卒論発表会の事前演習
第16回	第1章の提出	第31回	卒論報告会でのプレゼン

※上記項目は目安であり、進度により適宜変更・調整する。

到達目標

- ・自らが設定したテーマに対し、様々な資料を参照することにより、一定の結論を導き出すことができる。
- ・多様な意見や視点があることを知ることができる。

履修上の注意

- ・ゼミの活動は通常の講義時間以外のキャリアセンター主催の各種講座、学外での活動や懇親会への参加などを含む総合的なものであると考えているため、様々な履修指導を行う。
- ・就職活動と並行して進めることになるので、可能な限り、卒業単位を取得しておくこと。
- ・卒論本体の作成は、ゼミ性が何名であろうと、個別指導になる。

予習復習

予習：多くの参考文献を読む。

復習：課題に対する結論を考え、次の展開を検討する。

評価方法

卒業論文における参考文献の理解 40%程度と、自ら設定した問題意識に対する主張 60%程度として評価する。

テキスト

使用しない。

授業概要

卒業論文・卒業研究は大学で学んだ知識・教養・スキルの集大成である。ほとんどの学生にとって人生最初にして最後の大作業であり、この時期でしかできない貴重な体験でもある。論文作成中に眠れない日々は続くかもしれないが、完成後の喜びは生涯忘れることがないだろう。教員のアドバイスとサポートを受けながら、テーマを選び、資料を収集し、構成を固め、最後は一気に書き上げる一連の作業は、自ら取り組んでいかなければならない。集中度、忍耐力、前向きな心持ちは不可欠である。

卒業論文への評価基準は次のとおりである。a.論文としての体裁が整っているか、b.論点は明確にしているか、c.研究対象・範囲が定まっているか、d.ある程度の独創性が認められるか、e.論拠への裏づけ（適切なデータ、資料）があるか、である。卒論ゼミではこの基準に沿って指導し、論文の完成をバックアップしていく。

授業計画

第 1 回	概説：論文を書くということ	第 16 回	春期内容の確認と秋期タイムテーブル
第 2 回	関心のある複数のテーマを設定する	第 17 回	発表：各自の卒論内容（論文全体の 3 割を完成）
第 3 回	資料の確認とテーマの絞り込みを行う	第 18 回	（同上）
第 4 回	テーマを確定し、構想を練る	第 19 回	（同上）
第 5 回	発表：各自のテーマに関する先行研究	第 20 回	（同上）
第 6 回	（同上）	第 21 回	発表：各自の卒論内容（論文全体の 7 割を完成）
第 7 回	（同上）	第 22 回	（同上）
第 8 回	（同上）	第 23 回	（同上）
第 9 回	発表：各自の研究資料の分析	第 24 回	（同上）
第 10 回	（同上）	第 25 回	発表：各自の卒論内容（卒論初稿の完成）
第 11 回	（同上）	第 26 回	（同上）
第 12 回	（同上）	第 27 回	（同上）
第 13 回	発表：章立て（構成）を考え、論文の中心内容を再確認し、執筆（入力）作業を進める	第 28 回	（同上）
第 14 回	（同上）	第 29 回	目次、はじめに・終わりに、参考文献
第 15 回	（同上）	第 30 回	卒論要旨の作成と提出
		第 31 回	総括

到達目標

- ・上述の評価基準に少しでも近づけられるような卒論が完成できる。

履修上の注意

いったん決めたテーマを途中で変更すると、それまでの作業は無駄になってしまうので、極力避けること。

予習・復習

入手した文献資料の関連部分を必ず通読すること。

評価方法

卒論の完成度（100%）

テキスト

履修者の卒論テーマに関連する参考文献を適宜指示・紹介する。

授業概要

本演習では、3年生秋期に作成したリサーチプロポーザルをベースに各自が決めた研究テーマに沿って、卒業論文を作成することを目的としている。研究テーマに沿って必要な文献、論文、資料、データを収集し、調査分析、考察する能力を修得する。

具体的には、各個人が興味のある企業を選定し、企業の分析を中心とした研究テーマを設定した上で、研究の背景、先行研究、課題設定、事例分析、事例検証、考察、まとめ、といった構成で研究課題への理解を深め、最終的に卒業論文を執筆する。

授業計画

第 1 回	春期演習の概要	第 16 回	秋期演習の概要
第 2 回	研究テーマに関連する資料収集 1	第 17 回	事例分析 1
第 3 回	研究テーマに関連する資料収集 2	第 18 回	事例分析 2
第 4 回	研究テーマの設定	第 19 回	事例検証・結果の整理 1
第 5 回	研究テーマの背景	第 20 回	事例検証・結果の整理 2
第 6 回	先行研究の精読 1	第 21 回	考察 1
第 7 回	先行研究の精読 2	第 22 回	考察 2
第 8 回	先行研究の精読 3	第 23 回	まとめ 1
第 9 回	先行研究の精読 4	第 24 回	まとめ 2
第 10 回	先行研究の精読 5	第 25 回	卒業論文の執筆 1
第 11 回	課題の設定 1	第 26 回	卒業論文の執筆 2
第 12 回	課題の設定 2	第 27 回	卒業論文の執筆 3
第 13 回	事例研究 1	第 28 回	卒業論文の校正 1
第 14 回	事例研究 2	第 29 回	卒業論文の校正 2
第 15 回	中間報告	第 30 回	要旨の作成

到達目標

- 各個人が興味のある企業に対して、研究テーマを設定し、卒業論文の項目に沿って調査分析することにより、卒業論文作成の基礎を修得できる。
- 興味がある企業の調査分析を通して、将来担当する業務に活用できるスキルを身に付けることができる。
- 4年間の集大成として卒業論文を書き上げることができる。

履修上の注意

- 学生の人数や進行度合いによっては、変更・調整することがある。
- 本演習ではディスカッションインを中心としたインタラクティブ(双方向)な方式で進めるので、必ず毎回出席すること。
- 積極的、主体的に演習及び調査研究に参加する意識を持つこと。

予習・復習

- 研究のテーマの背景、先行研究、課題、事例研究、事例検証、考察、まとめなど、調査結果、進捗状況は適宜発表してもらうので、各自自分で整理・復習すること。

評価方法

- 成績は、出席状況、演習参加の姿勢、卒業論文の執筆、卒業論文の発表、課題提出などを踏まえ、総合的に評価する。

・テキスト

- テキストや参考文献に関しては、必要に応じて演習中に指示する。

授業概要

卒業論文の研究および論文執筆・完成を指導する。3年次の専門演習にて行った調査・研究・分析を基盤に、各自の卒業論文テーマを決定する。「研究の目的」を明確にし、「研究の方法」を検討し、研究を進めていく。研究に必要なデータや資料を収集し、整理・分析を行う。

研究の進捗状況報告と中間報告は都度ゼミにて発表する。「研究の結果」は正確に報告し、「結論・考察」にて本研究で発見したことや課題につき報告する

皆さんは、論文を執筆するのは人生初めてであり、論文執筆におけるルール、作法を習得し、「卒業論文」を執筆し、完成させる。に

卒業論文の研究過程において、学内教室以外での授業（現場調査、視察、国会図書館往訪資料探索等）がでて来た場合は学外授業を実施する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	卒論テーマの確認	第 17 回	卒論での研究内容、テーマの確認
第 3 回	「研究の目的」「研究の方法」の説明	第 18 回	研究方法の再検討1
第 4 回	研究の進捗報告・中間発表1	第 19 回	研究方法の再検討2
第 5 回	研究の進捗報告・中間発表2	第 20 回	更なるデータ、資料の収集・追加
第 6 回	研究の進捗報告・中間発表3	第 21 回	研究結果の整理・集約1
第 7 回	研究の進捗報告・中間発表4	第 22 回	研究結果の整理・集約2
第 8 回	研究の進捗報告・中間発表5	第 23 回	研究結論の考察1
第 9 回	研究の進捗報告・中間発表6	第 24 回	研究結論の考察2
第 10 回	研究の課題と検討点報告1	第 25 回	論文執筆1
第 11 回	研究の課題と検討点報告2	第 26 回	論文執筆2
第 12 回	卒業論文執筆1	第 27 回	論文提出・発表
第 13 回	卒業論文執筆2	第 28 回	論文修正
第 14 回	卒業論文執筆3	第 29 回	完成論文提出修正論文発表
第 15 回	中間段階での卒業論文提出（7月末）	第 30 回	要旨の作成、提出（1月中旬）
		第 31 回	卒論発表会で発表（2月上旬）

到達目標

- ・大学時代のみならず、自分の学校時代の勉学の集大成としての卒業論文を書き上げることが出来る。
- ・論文執筆、レポート作成時における、ルール、作法を習得することが出来る（剽窃厳禁、スタイル、引用記載方法、注のつけ方、フォントのルール、数字の順番など）。

履修上の注意

- ・早め、早めで研究を進めて、時間的余裕をもって卒業論文を仕上げること。
- ・剽窃は厳禁。

予習・復習

- ・卒業論文を4年生の大学生活のコアに据え、学校時代の集大成にする作品を書き上げること。
- ・論文要件は15,000字以上を予定している。

評価方法

- ・卒業論文およびゼミでの報告を評価対象とする。
- 配点は、卒業論文80%、報告20%。

テキスト

- ・特になし。必要な文献は授業内で紹介する。

授業概要

3年間で学んだことを踏まえ、各自研究テーマを決めて研究方法を検討し、卒業論文を完成させることを目的としている。研究テーマに沿って必要な資料やデータを収集し、分析、考察していく力を身に付ける。研究に取り組む過程で、プレゼンテーションなどを行うことにより、研究課題への理解を深め、最終的に論文をまとめるよう指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	関心のある研究論文の発表 1	第 17 回	更なる論文、資料の収集の仕方
第 3 回	関心のある研究論文の発表 2	第 18 回	方法の検討 1
第 4 回	テーマの設定	第 19 回	方法の検討 2
第 5 回	先行研究の読解 1	第 20 回	調査・実験の実施 1
第 6 回	先行研究の読解 2	第 21 回	調査・実験の実施 2
第 7 回	先行研究の読解 3	第 22 回	調査・実験の実施 3
第 8 回	先行研究の課題 4	第 23 回	結果の整理 1
第 9 回	先行研究の課題 5	第 24 回	結果の整理 2
第 10 回	問題点の討論 1	第 25 回	考察のまとめ 1
第 11 回	問題点の討論 2	第 26 回	考察のまとめ 2
第 12 回	問題点の討論 3	第 27 回	卒業論文の執筆 1
第 13 回	問題と目的のまとめ 1	第 28 回	卒業論文の執筆 2
第 14 回	問題と目的のまとめ 2	第 29 回	卒論発表予行演習 1
第 15 回	問題と目的のまとめ 3	第 30 回	卒論発表予行演習 2
		第 31 回	筆記試験等 (含むレポート)

到達目標

- ・研究テーマに関わる文献、資料を収集し、内容を理解できる。
- ・これまで学んだことを多面的な視点で考えられる応用力、論理的思考力を習得できる。
- ・4年間の集大成として卒業論文を書き上げることができる。

履修上の注意

- ・無断欠席はせず、欠席する場合には連絡すること。
- ・主体的に参加すること。
- ・毎回の授業内容をノート等に記録すること。

予習・復習

- ・毎回の課題について、自ら積極的に調べておくこと。

評価方法

卒業論文 (70%) と卒論発表 (10%)、筆記試験等 (20%) 等をふまえ、総合的に評価する。

テキスト

指定しない。